

## 23 松江とジュネーブ — 景観賛美のルーツを探る —

【全3回】／開催方法：現地

おかざきひでき  
岡崎秀紀

学芸員  
島根大学教育学部嘱託  
講師  
松江バルトン会幹事



受講料 一般料金：¥5,800 早割価格：¥4,800(納入期限：10月10日)

【日程】【全3回】 1回／月 不定週 土曜日、日曜日  
(10/15、11/12、12/9) ※カレンダーでは「㊤岡崎」と表記

【時間】13:20~14:50

■受講に必要なもの  
[テキスト] レジュメ配布

2022年度の講座『華表美談 宍道湖嫁島』を読む』では、嫁ヶ島・竹生島神社の華表（鳥居）献納の物語、宍道湖・嫁ヶ島の文学、治水事業、環境保全、衛生思想の歴史などを学習しました。

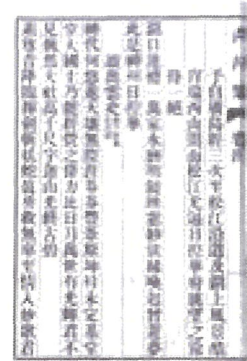
文学作品の一つに、宍道湖の勝景がジュネーブに似ている、と激賞した末松謙澄（官僚・政治家・文学者、1855-1920）の漢詩がありました。

1918年、松江を訪問したJohn Eills（ハーン研究者、1868-?）も、宍道湖の風景について、「ハーンが最初の一年を教師として過ごした松江は、ジュネーブに似ていなくもない」（1927）と書き残しています。八雲自身は作品にジュネーブを扱ったこともありませんし、本人が訪ねたこともありませんでした。が、いつかの文献では、「八雲が、松江はジュネーブに似ていると言った」と、書かれています。

本講座では、松江とジュネーブの類似性を表現、指摘した文献を調査しまとめたので、それらを紹介し、内容を検討します。そして、調査した文献を3つの時代区分に分けて、松江市民の八雲の受容と八雲会の活動の歴史の観点から、分析・考察を試みたいと思います。

### 第1回 松江とジュネーブのルーツ（明治時代）

- 1) 宍道湖（嫁島）の景観  
菅茶山「碧雲湖吟」（1763頃）、永坂石球「碧雲湖棹歌」（1914）
- 2) 漢詩人が発見した松江とジュネーブの景観  
飯塚納（西湖）…『西湖四十字詩集』（1903）、『西湖四十字詩』（1930）  
末松謙澄「松江城下作」（1891）  
前田秀實「宍道湖の記」『地学雑誌』（1894）  
「宍道湖の美人或は之を西湖に擬し或は東洋のゼネヴァと稱す…」



末松謙澄  
「松江城下作」（1891）

### 第2回 松江とジュネーブ（大正時代）

- 1) 田山花袋編『日本一周』（1915）
- 2) Eillsの松江訪問（1918）  
「In Idzumo with Hearn」、『Safe Thoughts for Skittish Times』（1927）
- 3) 勝田商店の広告文（松江本町、1930）  
広告に見るジュネーブのイメージとその拡散



太田直行  
「宍道湖の新研究(2)」  
(1928)

### 第3回 松江とジュネーブ（昭和時代）

- 1) 戦前  
田中阿歌麿『湖沼巡礼』（1927）  
太田直行「宍道湖の新研究（2）」『山陰新聞』（1928）  
松本博「宍道湖沿岸」『日本地理風俗体系X』（1930）  
若槻有格「水郷松江とジュネーブ」『婦女界』（1930）
- 2) 戦後  
『岩波写真文庫No.91松江』（1953）、  
太田直行「ヘルンと松江」『島根タイムス』（1955）、  
銭本健二『へるん今昔』（1993）

### まとめ（考察・感想）

松江市民の八雲の受容と八雲会の歴史

- ハーンの時代の前より、ジュネーブとの類似性は漢詩人から指摘、表現されていました。
  - ◎ 文献を整理して3つの時代区分に捉え、八雲の市民への受容と八雲会の活動の観点で、分析・考察を試みます。
- I. 漢詩人の時代（1891～）、II. 国際連盟の発足（1920）、III. 国際文化観光都市・松江（1951）

参考）第1次八雲会（1915～）、第2次八雲会（1965～）

### 【参考書】

『華表美談 宍道湖嫁島物語』 著者：岡崎秀紀 出版年：2022.4.1